

# シンポジウム (ジェンダー史学会春のシンポ in 岩手) エンパワーメントとジェンダー史の関係性—— 地域女性の自主学習運動を通して

女性史は、各地域の女性たちによる自主学習運動として展開され、女性たちのエンパワーメントを達成してきました。他方でジェンダー史は、地域における女性の自主学習の動きにどのような影響をもたらし、エンパワーメントとどのような結びついているのでしょうか。とりわけ東日本大震災という大きな危機を経験し、学問と地域のエンパワーメントとの関係性があらためて問われている現在、ジェンダー史は女性たちのエンパワーメントに何を提起していけるかを考えていきたいと思います。

この問題を考えるために今回のシンポジウムでは、地域での自主学習から女性史研究へと向かっていった世代から、ジェンダー史が提唱されて以降の若い世代まで、様々な立場のパネリストから、エンパワーメントとジェンダー史の関係性を問うていただきます。また、丸岡秀子ら女性史研究者が地域住民への支援運動に加わった岩手 県の「小繋（こつなぎ）事件」関係者をパネリストに招き、エンパワーメントと研究との関係について話題提供をしていただきます。

<日時>2012年5月12日(土) 13時~17時シンポ、終了後に茶話会

<場所>岩手大学学生センター棟 G18 教室 (JR 盛岡駅よりバスまたはタクシー)

[http://www.iwate-u.ac.jp/campusannai/campus\\_map.shtml](http://www.iwate-u.ac.jp/campusannai/campus_map.shtml)

<プログラム>

13:00~13:10 趣旨説明 海妻径子 (岩手大学)

13:10~15:10 パネリスト報告

○柳原恵 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程) 「麗ら舎の〈おなご〉たち—岩手県北上市における軌跡を拓く」

○菊地文代 (映画製作者) 「『こつなぎ』を通して生き方を探る」

○植田朱美 (岩手女性史を紡ぐ会/戦中・戦後を語りつぐ会 (いわて)) 「岩手女性史年表・史料と記録集『いわてからの声』編纂へ——地域の女性史・ジェンダー史の現場から」

15:10~15:30 休憩

15:30~16:00 報告へのコメント 加納実紀代 (女性史研究者)

16:00~17:00 ディスカッション <司会>加納実紀代・海妻径子

17:10~18:10 茶話会

◎共催：岩手大学男女共同参画推進室

\*岩手大学の学内保育スペース「ぱるん広場」の利用が可能です。

利用ご希望の方は事前にお問い合わせください。

◎当シンポジウムについてのお問い合わせは、下記をお願いいたします。

岩手大学人文社会科学部海妻研究室

(tel/fax : 019-621-6750 Email:kkaizuma@iwate-u.ac.jp)

参加費：シンポジウム無料、茶話会 500 円

主催：ジェンダー史学会 〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内

Tel : 03-5307-1175 Fax : 03-5307-1196 E-mail : genderhistory1@univcoop.or.jp

